

中国の大学評価における評価指標

京都大学大学院生 張 潔 麗

はじめに

中国における大学評価は1987年から始まったといわれ、2003年までは14の組織もしくは個人によって、30種類以上の評価が行われた¹。同時に、大学の管理主体である中央政府そして地方政府も大学及び大学によって提供される教育の質に対する評価を行っている。黄は大学評価について、1994年から2002年までの政府側による評価方法及び2002年時点での評価指標を紹介している²。南部は大学評価を中国における大学の質保証システムの一環としてまとめ、2004年から開始した大学評価の評価手順及びその結果等を整理したほか、2013年に始まった新たな大学評価の評価項目及び要素を分析した³。そこで、中国政府による大学評価が複数回修正されたことから、大学の質という概念及びその評価方法に関する考え方が変化してきたことが考えられる。そのため、本稿は、先行研究を踏まえて、修正された評価指標を整理し分析することを通じて、中国における大学評価の評価指標における変容を明らかにすることを目的とする。また、中国の四年制大学には普通高等教育機関、成人高等教育機関、軍事高等教育機関があるが、本稿ではその大多数を占めており、評価方法が政府文書に明記されている普通高等教育機関(以下、大学)に焦点をあてることにする。第1節では中国における大学の概要を述べて、第2節では中国における大学評価制度を整理する。そして第3節では評価指標の変容を整理し考察する。

1. 中国における大学の概要

中国における高等教育機関の量的拡大は1980年代から始まり、多様な分類方法が存在している。

まず、設置主体の側面からみると、中央政府部門と地方政府部門と、その他の公的資金を使用しない民間の主体がある。中国では1998年から一部の総合的大学が教育部(日本の文部科学省にあたる、以下、教育部)に移管され、残りの多くは地方政府へ移管された⁴。また、2003年に「中華人民共和国民営教育促進法」の施行によって、公的資金を使用しない組織及び個人による民営大学の設置運営ができるようになった。その結果、2016年には、2,596校の大学のうち、中央政府部門と地方政府部門が主管する大学数がそれぞれ118校(4.55%)と1,737校(66.91%)あり、民営大学が741校で、全体の28.54%を占めている⁵。

次に、機関で提供される教育の種類の側面からみると、本科課程教育と専科課程教育に分けられる。本稿で焦点をあてる大学は主に本科課程教育を提供し、その定義が1998年に施行された「中華人民共和国高等教育法」に決められている。具体的には、「本科教育は、学生に当該学問分野、専業が必要とする基礎理論、基礎知識を十分に系統的に修得させ、当該専業に必要な基本的技能、方法及び関連知識を修得させ、当該専業の実際の業務や研究に従事する場合の初歩的能力を有するようにさせるものである」⁶(第16条)と規定されている。また、1980年公布の「中華人民共和国学位条例」では、本科課程教育の卒業生の学士学位の取得条件を、「(一)当該学科の基礎知識、専門知識及び基本的技能をかなりよく習得し

ていること。(二)科学研究活動に従事し、あるいは専門技術活動を行う初歩的能力を有すること」⁷決められている。2016年度の約2,696万人の在学生のうち、約6割の1,613万人が本科課程教育を受けている⁸。

2. 中国における大学評価

前節で確認したように、中国における大学の約7割は政府側に主管されている。そこで、政府側による大学に対する評価において、その評価制度がどのように変化して、2017年現在ではどのように実施されているのかを本節で考察する。

2.1 「1990—2002 合格評価、大学運営水準評価、選優評価」

1990年に国家教育委員会が打ち出した「大学教育評価に関する暫定規定」(原語、「普通高等学校教育評価暫行規定」)⁹では、大学評価の目的を、「大学が自発的に社会のニーズに適合する能力を強め、高等教育の社会主義方向を維持し、大学運営能力及び教育の質を高め、社会主義の建設によりよく奉仕するようにさせて、社会による大学教育への監督作用を発揮させる」ことと明記している。この時期の大学評価には、主に合格評価(鑑定)、大学運営水準評価、選優評価の3つの方法がある。

また、合格評価は建学からの歴史の短い大学に対して、初めての卒業生ができる時点で行われるものであり、その結果には合格、暫定合格と不合格の三種類ある。評価結果が暫定合格と不合格となった大学はそれぞれ、一定期限内で改善の措置をとり、教育の質を高めてから合格評価を再び受けるもしくは大学運営状況を整頓するもしくは学生募集、大学運営を停止する措置をとらなければならない。そして、評価結果が合格である大学に対して大学運営水準評価(原語、办学水平評価)が行われる。そこには、4~5年に一度実施される総合的な評価と、単項評価がある。大学運営水準評価の結果によって選優評価が行われる。選優評価は大学間競争を促して大学の運営水準を高めるため、大学がランキングされるほか、上位を占める大学が奨励される。

さらに、評価機構は国家教育委員会、教育行政部門等の国務院のうちの関連部門と、各省共産党委員会の大学事業委員会(原語、高校工委)、各省の教育行政部門によって設置する大学評価指導グループ(原語、普通高等学校教育評価指導小組)である。具体的な評価手順としては、①大学が自己評価を行い、自己評価報告書を作成する、②現地調査グループが現地調査を行い、視察報告書を作成する、③大学評価指導グループが視察報告書に基づいて正式な評価結果を決めるという手順が一般的である。

そして、評価指標について、合格評価では大学の運営に必要となるインフラの整備状況及び教育の質を評価し、その詳細項目はそれまでに定められた大学設置条例及び学位条例で決められている。一方、大学運営水準評価の総合評価は大学の運営に関する指導的思想、共産党及び国の方針、政策の実施状況、人材育成及び科学研究、社会に奉仕する等の側面の水準及び質を評価して、大学の管理層の整備、マルクス主義教育をはじめとする思想政治教育の実施状況が評価の重点となる。単項評価は主に、中国における思想政治教育の実施状況、専攻及びカリキュラムの設置状況等の教育的側面を評価する。

2.2 「2002—2011 水準評価」

2002年に教育部が「大学本科課程教育評価方案(試行)」(原語、「關於印發《普通高等学校本科教学工作水平評估方案(試行)》的通知」)¹⁰を打ち出したことによって、上述した3つの評価手段からなる大学

評価は、「水準評価」(原語、水平評価)となった。その目的が、水準評価の実施によって、国による大学教育へのマクロな管理及び指導を強化し、各レベルの教育行政部門による大学の教育事業を重視し支持するように促進し、大学による教育の規則に従って大学運営の指導的思想の明確、大学運営条件の改善、教育の基礎インフラの強化、教育の質を全面的に高めるように促すことと決められている。また、その評価結果は優秀、良好、合格、不合格の四段階となっている。

2004年に大学教育質評価・諮問機関として教育部高等教育教学評価センター(原語、教育部高等教育教学評估中心、以下評価センター)が設置され、五年を一周期とした大学教育質評価制度を実行する¹¹⁾。また、同年には、水準評価の内容を修正する文書が打ち出され、管理の側面を強調した。

大学評価の評価指標は大きく7項目に決められた。具体的には、大学運営の指導思想、教員チームの整備状況、インフラとその利用状況、専攻の開設状況と教育改革、教育管理、大学の雰囲気、教育効果という7項目である。また、2004年の修正においては7項目の修正がみられない。

2.3 「2011-2017 合格評価・審査評価」

2011年、教育部は「普通高等教育機関本科課程教育評価事業に関する意見」(原語、「關於普通高等學校本科教學評估工作的意見」)¹²⁾を打ち出し、中国の特色ある現代的高等教育体系に相応する高等教育評価制度を設置すると提起している。その目的は「大学が共産党の教育方針を全面的に貫徹し、教学改革を推進し、人材育成の質を高め、本科課程教育が経済・社会の発展ニーズと人の全面的発展の重要に適合する能力を高めて、大学の位置付けが合理的になり、学校運営が水準と特色あるようにリードして、社会が人材育成を評価し、教育の質を監督するように促進する」ことであると明記している。

また、高等教育評価制度は、自己評価、大学評価、専攻認可・評価、国際評価、教育状態データ常時測定という5つの評価手段からなるため、「五位一体」評価制度ともいわれている。そして、この5つの評価手段のうち、政府側は主に大学評価を主導して行っている。大学評価は上述した評価センターによって設計され、合格評価と審査評価からなる。

合格評価の評価対象は、2000年以降大学評価を受けていない本科課程教育を提供する新設大学である。具体的な評価手順は、1990-2002の大学評価と同様、大学による自己評価と現地調査グループによる視察からなる2つの報告書をもとに、評価センターが整備する専門家委員会による最終結果が決められる。その結果には合格、暫定合格、不合格の三種類があり、評価結果が合格となった大学は審査評価を受けて、その他の大学は2年もしくは3年の改善期間が与えられ、学生の定員を減らし、開設する専攻を調整する方法によって、教育の質を高めてから合格評価を再び受けなければならない¹³⁾。

次に、合格の結果を得た大学は5年後、審査評価を受ける。中央政府部門に主管される大学の審査評価は評価センターが実施するのに対して、地方政府部門に主管される大学の評価権は各省レベルの政府が有している。こうしたことを通じて、中央政府と地方政府が大学評価に関する責任を分担して、共同管理をする。審査評価においては、合格等の結果がなく、評価中に発見された問題点はその結果となる。

合格評価の内容も水準評価と同様に計7項目あり、具体的には大学運営のミッション・管理層の役割、教員チーム、教育条件・その利用、専攻・カリキュラムの開設、質の管理、学風・学生指導、教育の質がある。全ての大学が7項目で評価されるが、大学の事情によって、評価のポイントとなる項目が異なる。具体的には、民営大学は管理層、特に理事会や共産党委員会の役割分担について詳細な説明が要求

されて、医学系が中心となる単科大学の教員チームには、医療現場で働いている教員の整備が量的に決められて等の違いがみられる¹⁴。一方、審査評価の核心的な評価項目は人材育成の目標及び育成効果の実現状況という項目である¹⁵。また、大学の位置づけと人材育成目標と、国家・地域の経済・社会発展のニーズとの適応程度、教員及び教学資源インフラの保証程度、教学及び質保証システム運営の有効程度、そして学生と卒業生雇用企業による満足度との適応程度が重点的に評価される。

このように、1990年代から2017年現在までの政府側が主導して実施する大学評価は上述した3つの段階に分けられ、各段階の大学評価の目的、手順及び主要な評価項目を確認した。大学評価の評価項目が定められて、異なる特色を有する大学を評価する際には異なる項目を重視するようになったことが分かった。また、1990年より大学評価には、大学による自己評価のプロセスがあることから、各大学の特色を重視することが読み取れる。

3. 中国の大学評価における評価指標の比較及び変容

前節では大学評価を3つの時期に分けて、それぞれの評価項目をした。本節では、3つの時期の評価項目、及びそのなかの評価指標を比較しそれぞれの変容傾向を考察する。そのうち、「1990—2002合格評価、大学運営水準評価、選優評価」には明確な評価項目が定めていなかったため、21世紀以降の中国における大学評価の評価項目そして評価指標の比較は表1と表2になる。

表1 大学評価の評価項目の比較

	2002水準評価	2011合格評価	2013審査評価
1	大学運営指導的思想	大学運営のミッション・管理層の役割	大学の位置付け・ミッション
2	教員チーム	教員チーム	教員チーム
3	インフラ条件・その利用	教育条件・その利用	教学資源
4	教育状況・その改革	専攻・カリキュラムの開設	育成過程
5	教育管理	質の管理	学生の発展
6	学習雰囲気	学風・学生指導	質保証
7	教育効果	教育の質	

出典：教育部「關於印發《普通高等学校本科教学工作水平評估方案(試行)》的通知」2002年、「普通高等学校本科教学工作合格評估指標体系」2011年、「關於開展普通高等学校本科教学工作審査評估的通知」2013年 (http://www.moe.gov.cn/srcsite/A08/s7056/200408/t20040818_148778.html, <http://old.moe.gov.cn/publicfiles/business/htmlfiles/moe/s7168/201403/165450.htm>, <http://old.moe.gov.cn/publicfiles/business/htmlfiles/moe/s7168/201312/160919.html>、最終アクセス2018年1月31日)。

また、「2002—2011水準評価」及び2004年内容改訂においては評価項目の変化がなかったことと、「2011—2017合格評価・審査評価」ではそれぞれ異なる評価項目を決めていることを踏まえたうえで、評価項目の比較は表1のようになっている。表1から読み取れることは以下である。

第1に、2002年水準評価、2011年合格評価、2013年審査評価においては、大学運営に関する考え方や大学のミッション、教員チームの整備状況、教育の質と効果という項目への重視が共通している。

第2に、2011年合格評価より教育の質に対する管理及び保証、そして学生への指導の項目が提起された。また、2013年審査評価より教育的資源の獲得及び利用状況、そして学生の今後の発展状況、人材の

育成過程を評価するようになった。

第3に、2002年水準評価と2011年合格評価では大学のインフラ及びその利用状況、そして大学内の教育もしくは学習の雰囲気の評価項目となっていたが、2013年審査評価では評価項目の一部ではなくなったことが分かった。

表2 大学評価の評価指標の比較

	2002水準評価	2004水準評価	2011合格評価	2013審査評価
1	1.1大学の目標・位置づけ 1.2大学運営に関する考え	1.1大学の位置づけ 1.2大学運営に関する考え	1.1大学の位置づけ 1.2管理層の役割 1.3人材育成方式	1.1大学の位置づけ 1.2育成目標 1.3人材育成の中心的地位
2	2.1チーム構成 2.2専任教員	2.1教員数・チーム構成 2.2専任教員	2.1数・学位等の割合 2.2教育能力 2.3教員育成・研修	2.1数・学位等の割合 2.2教育水準 2.3教員教育投入 2.4教員の発展・サービス
3	3.1教育の基礎インフラ 3.2教育経費	3.1教育の基礎インフラ 3.2教育経費	3.1教育の基礎インフラ 3.2経費投入	3.1経費 3.2教育施設 3.3専攻の開設・ 人材育成方案 3.4課程資源 3.5社会資源
4	4.1専攻 4.2カリキュラム 4.3実践的教育	4.1専攻 4.2カリキュラム 4.3実践的教育	4.1専攻の開設 4.2課程・カリキュラム 4.3実践的教育	4.1教育改革 4.2授業教学 4.3実践的教育 4.4第二教室
5	5.1管理チーム 5.2質のコントロール	5.1管理チーム 5.2質のコントロール	5.1管理チーム 5.2質の監督	5.1学生募集・学生の質の状況 5.2指導・サービス 5.3学風・学習効果 5.4就職・発展
6	6.1教員の風貌 6.2学習雰囲気	6.1教員の風貌 6.2学習雰囲気	6.1学習雰囲気 6.2指導・サービス	6.1教育の質保証システム 6.2質の監督 6.3質の改善 6.4質に関する情報・利用
7	7.1基礎理論・基本的技能 7.2卒業論文もしくは卒業設計 7.3思想道徳的素養 7.4体育 7.5社会的名誉	7.1基礎理論・基本的技能 7.2卒業論文もしくは卒業設計 7.3思想道徳的素養 7.4体育 7.5社会的名誉 7.6就職状況	7.1徳育 7.2専門的知識・能力 7.3体育・美育 7.4大学内外による評価 7.5就職	

出典：同表1。

表1の評価項目の比較を踏まえて、そのなかの具体的な評価指標を表2のようにまとめた。また、黒字の部分は前段階の評価指標より新たに加えられた指標である。表2から読み取れることは以下である。

第1に、大学運営に関する考え方、教員チームの構成、そして大学の基礎インフラ条件及び教育経費の投入等の教育資源、教育の質の監督への評価は同様である。

第2に、人材育成が大学運営の中心的位置にあることを明確的に提起するようになり、それと関連して、教員の育成も人材育成の一環として重要視されるようになった。また、人材育成の過程及び方法も決められ、育成された人材の質に対する管理や情報共有のシステムの整備も提起されるようになった。さらに、2013年審査評価より学生の発展の評価指標が現れた。

第3に、学習の雰囲気及び就職状況の評価指標は、異なる評価項目で評価されるようになった。

第4に、徳育、体育、美育は2013年審査評価の評価指標ではなくなっている。

以上のように、中国における大学評価の評価指標は、より明確に、詳細に設定されるようになったこ

とが分かった。そのうち、人材育成が重要視されるようになったことから、教育の質への重視は、教育そのものから、教育される人材及びその人材の就職状況になったことが考察できた。また、大学の外側による大学への評価、社会側の資源及び、大学の質に関する情報の社会側への公開状況を評価するようになったことから、大学と社会との交流、連携を重視するようになったといえる。

おわりに

1990年、2002年、そして2011年以降の中国における大学評価の評価項目そして評価指標を整理し、比較することによって、中国政府側による大学及び大学の質の内容の変化が窺えた。そのうち、21世紀以降、大学評価の評価指標がより明確になっている。また、人材育成の目標及び過程がより重要視されるようになってきていることから、大学の質のうち、育成された人材の質がより大きな部分を占めていることが考察できた。さらに、大学と社会との連携及び交流の側面が評価指標になっている点から、大学による社会側との連携、交流がより重要視されることが分かった。最後、2017年現在では、中国における高等教育評価制度の一環として、2011年改革後の大学評価が実施されていることが分かり、その動向を今後注目していきたい。

注

- 1 邱均平・宋恩梅「我国大学評価的現状及主要問題分析」『図書館論壇』Vol.23、No.6、2013年12月。
- 2 黄福涛「第3章 中国における高等教育の質保証—「本科教学評価」による質保証を中心に」羽田貴史・米澤彰純・杉本和弘著『高等教育質保証の国際比較』東信堂、2009年、101-113頁。
- 3 南部広孝「第4章 中国における高等教育の質保証システムとその変容」『高等教育における学習成果アセスメントと質保証に関する国際比較研究』（平成21-23年度科学研究費補助金基盤研究(C) 研究成果報告書研究代表者：深堀聰子)2012年、87-111頁、「中国における機関評価の動向」『IDE現代の高等教育』IDE大学協会、No.595、2017年11月、63-66頁。
- 4 楠山研「中国における大学入試改革の動向：地方・大学への権限委譲に関する一考察」『京都大学大学院教育学研究科紀要』第51号、2005年、129-130頁。
- 5 教育部發展規劃司 a「高等教育学校（機構）数」2016年(http://www.moe.gov.cn/s78/A03/moe_560/jytjsj_2016/2016_qg/201708/t20170822_311604.html、最終アクセス2018年1月19日)。
- 6 長谷川豊・南部広孝・吉村澄代『『中華人民共和國高等教育法』訳と解説（前編）』『季刊教育法』第118号、エイデル研究所、1999年、37頁。
- 7 第五回全国人民代表大會常務委員會第十三回會議「中華人民共和國學位條例」何東昌主編『中華人民共和國重要教育文獻 1949年~1997年』海南出版社、1998年、1792-1793頁。
- 8 教育部發展規劃司 b「高等教育学校（機構）学生数」2016年(http://www.moe.gov.cn/s78/A03/moe_560/jytjsj_2016/2016_qg/201708/t20170822_311603.html、最終アクセス2018年1月19日)。
- 9 国家教育委員會「普通高等学校教育評估暫行規定」1991年(<http://old.moe.gov.cn/publicfiles/business/htmlfiles/moe/s7168/201303/148784.html>、最終アクセス2018年1月30日)。
- 10 教育部 a「關於印發《普通高等学校本科教学工作水平評估方案(試行)》的通知」2004年(http://www.moe.gov.cn/srcsite/A08/s7056/200408/t20040818_148778.html、最終アクセス2018年1月30日)。
- 11 教育部 b「2003-2007年教育振興行動計劃」2004年(http://old.moe.gov.cn/publicfiles/business/htmlfiles/moe/moe_177/200407/2488.html、最終アクセス2018年1月21日)。
- 12 教育部 a「關於普通高等学校本科教学工作評估工作的意見」2011年 (<http://old.moe.gov.cn/publicfiles/business/htmlfiles/moe/s7168/201403/165450.html>、最終アクセス2018年1月21日)。
- 13 教育部 b「普通高等学校本科教学工作合格評估指標体系」2011年、同上 HP。
- 14 教育部 c「対民辦、医学類、芸術類高校部分評估指標的調整說明」2011年、同上 HP。
- 15 教育部「關於開展普通高等学校本科教学工作審查評估的通知」2013年 (<http://old.moe.gov.cn/publicfiles/business/htmlfiles/moe/s7168/201312/160919.html>、最終アクセス2018年1月21日)。

The Evaluation Index of China University Evaluation

Jieli ZHANG

The university evaluation led by the Chinese government began in 1990 with several changes. By comparing the changes of the evaluation indexes of the university evaluation in these few changes, this paper makes a comparative analysis of the changes of the concept of the quality of universities in the eyes of the Chinese government and universities. And has come to a conclusion that the Chinese government conducted a total of three reforms of the university evaluation system in 1990, 2002 and 2011. In 2017, universities in China are now implementing the 2011 reform university evaluation, and this university evaluation in China is called "Five in One" Evaluation System of Modern Higher Education. In addition, after entering the 21st century, the evaluation index for university evaluation gradually became clear and detailed. At the same time, the evaluation of universities is paying more and more attention to the goal and process of personnel training. It also shows that the quality of trained personnel accounts for an increasingly important component in the quality of universities. Finally, judging from the evaluation index of mutual cooperation and exchange between universities and the society, it can be seen that the university is no longer in an independent environment, but more emphasized on cooperation with the society.